

正光寺開山四百年忌報恩記念事業だより

正光寺遠忌委員会広報誌 第8号 平成28年10月1日発行

特集

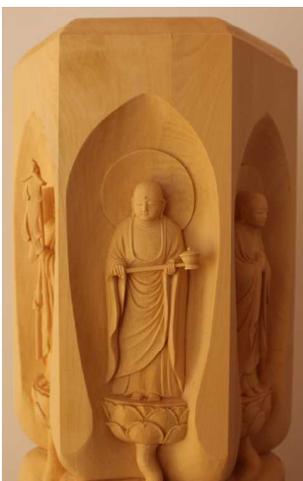
地藏堂(永代供養納骨堂)と六地藏のご紹介



鶏亀地藏(地獄道)



地持地藏(畜生道)



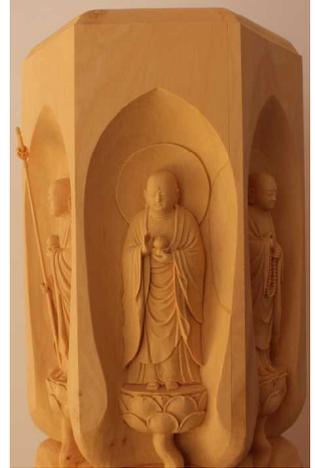
法性地蔵(人間道)



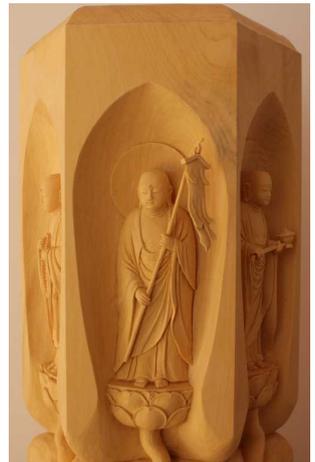
地藏堂(納骨堂)に安置された六地藏



六地藏のもととなった正光寺のカヤの木



陀羅尼地藏(餓鬼道)



法印地藏(修羅道)



宝性地蔵(天道)

地藏堂(永代供養納骨堂)に安置された六地藏さまは澤元彫刻(天峰建設社長の三男・扶己彦氏の工房)で制作されました。この地藏菩薩像は主に奥様の陽子さんが彫刻して下さったのですが、彼女は京都の仏師のもとで永年修行し、伝統工芸師に認定された仏師です。昨年の春、縁あって澤元家に嫁がれたのですが、実は結婚して最初のお仕事となった仏縁深いお地藏さまなのです。その美しいお姿をぜひ間近に拝んで頂きたいと思います。

六地藏さまとは

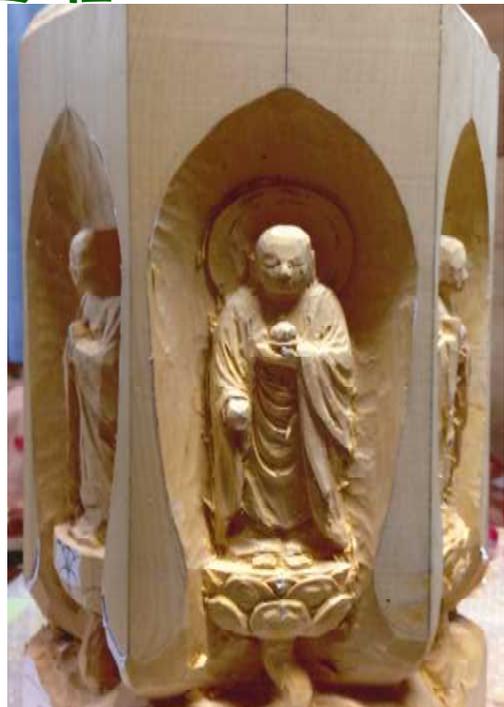
私たちはこの世でお悟りを開いて仏にならない限り、六つの迷いの世界を生まれ変わり死に変わりしなければならぬそうです。六つの迷いの世界とはすなわち地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上で、いずれも心安らかならざる苦しみの世界ですが、表紙の六地藏さまの写真にあるように、それぞれの苦界へ出向いて救済して下さるのが地藏菩薩さまです。菩薩とはいつでも仏の座に上られるほどの修行者ですが、自身の悟りよりも迷える者たちを救わずにはおられない慈悲を尽くされる方々です。観音さまも虚空蔵さまも文殊さま、そして妙見さまもすべて菩薩さまです。

制作過程

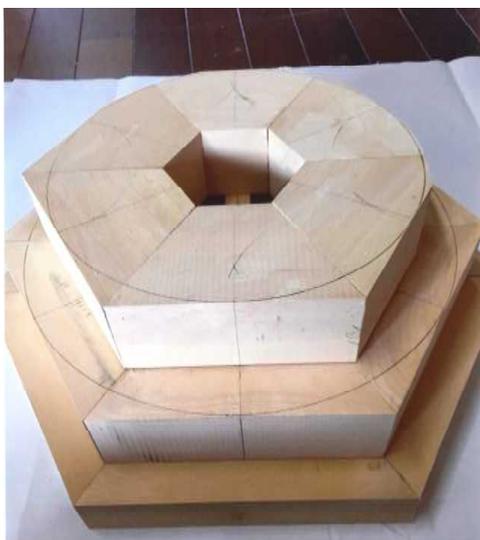
荒彫り…紙に書かれた下絵を目安に彫られます



六面は同時に彫り進められます



美しい木目の蓮華台の木地が組み込まれました



内ぐり…将来の割れや狂いを防ぎます





荒彫りから細かいところの小彫りへ…

カヤの木

仏像彫刻には最もふさわしいカヤの木なのですが、正光寺の歴代塔の脇に立っています。樹齢 600 年とも 700 年とも言われていますが、永年の風雪に耐え抜いたその聖木も次第に傾き、位牌堂にもたれかかるようになり、やむを得ず上部を切って反対方向に伸ばすことになりました。事情とはいえ一部伐採は心が痛みました。何とかその材を有意義に生かすことはできないものかと模索しておりましたところ、今回の事業で納骨堂が新たに建設されましたのでその地蔵堂本尊にこのカヤの木を利用して頂くこととしました。因みにこの六地蔵は墓地入り口にある石彫りの六面地蔵からヒントを頂いたものです。

子供の頃にカヤの木に登ったり、カヤの実で笛を作ったり、夜尿症の薬と言われて食べさせられた子供たちもきっと多いはず。子供たちや正光寺の歴史を見守ってきた“カヤの木”がお地蔵さまとなって甦り、新たな信仰の対象となりましたことを心から嬉しく思います。



持物も同じ材料から丁寧に作られます



彫刻刀を砥ぎなおして、木につやが出るように仕上げをする澤元陽子さん

地蔵堂のご紹介の前に 永代供養のおはなしを

永代供養とは…日本人は永い間、家制度に基づき血縁を尊重してきました。祖先に対しては尊崇を、子孫に対しては慈愛を注いできたのです。そして冠婚葬祭（誕生、成人、結婚、葬儀、供養など）が心を込めて懇ろに行なわれてきました。ところが近年その家制度は少しずつ変化を見せはじめ、核家族化や少子高齢化、都市部への人口流出が進み、同時に個人の自由が認められ始め、しかも男女それぞれに自立した社会生活も営みやすくなってきました。そこで今までのような血族の子孫が祖先墓を受け継ぎ、墓参りや供養法要を営むというスタイルも自然的に難しくなってきたことは事実です。しかしながらやはり冒頭に記したように、先祖に対する崇敬や感謝の念は時代の変化に影響を受けることはなく、誰もが抱く自然な感情であることも否めません。現実的に叶わぬ事情ではありながら、供養せずにはおられないという方がほとんどです。そこで近代に入ってから止むに止まれぬ実情から「永代供養」という時代の変化に即応した新たな供養のかたちが注目されるようになってきました。

折も折…三百年振りの正光寺の本堂再建計画の中で、世間の要望にこたえるべく納骨堂の新設が盛り込まれ、御堂内での個別型の安骨（33回忌まで）と、墓地入り口にある萬霊供養塔での従来型の合葬（33回忌以降）との組み合わせにより、理想的な永代供養の形がようやく調ったといえます。



◆**永代供養の実際**◆ 永代供養は寺院によって13回忌まで、33回忌までなど様々ですが、正光寺の場合は諸回忌（一周忌、三回忌、七回忌、十三回忌、十七回忌、二十三回忌、二十七回忌、三十三回忌）には責任をもってご供養を行ないます。またそのような年忌供養以外にも彼岸供養、7月15日の山門施餓鬼でのご供養はもちろんのこと、毎月命日には一般檀信徒の先祖供養と同様に永代にご供養申し上げます。また地蔵堂内にも個別のお位牌を安置してご供養致しますので、ご縁者の方がいらっしゃる場合には、いつでもお参り頂くことができます。

◆**永代供養料**◆ 基本的な考え方は納骨堂使用料（旧来墓地からの転葬の場合は不要）と33回忌までの年忌回数×位戒に応じた供養料などとなりますが、永代供養を希望される場合は、事情も心情もさまざまですので、一概に価格を定めることがふさわしいとは言えないのが現状です。ですから直接正光寺へ状況や想いを伝えて頂きますようお願いいたします。また『永代供養の手引き』も準備していますので、いつでもお気軽にご相談ください。

◆ご理解頂きたいこと◆

- ①永代供養を申し込まれる以前の宗教や宗派は問いませんが、それ以降は正光寺での葬儀や供養の仕方は、臨済宗方広寺派の法式で行なわせて頂くこと
 - ②供養できる立場の方がいる場合は、可能な限り通常のご供養をして頂くこと
 - ③あらかじめご説明しますが、宗教法人正光寺の諸規約を遵守して頂くこと
- …以上をお願い致します。

*正光寺ホームページより抜粋





地蔵堂(納骨堂)のご紹介



住職渾身の堂額も澤元さんに刻字して頂きました

本堂の北西、カヤの木の傍らに位置する地蔵堂は、前ページのようにお墓を建立しても祀る人がいない場合や、永年守ってきたお墓の継承が困難になられた場合にご利用を頂いています。ロッカーのような作りで、杉板の扉を開けるとお骨が二つ納められる広さがあり、ご夫婦での納骨も可能です。中央に本尊様の六地蔵が安置されています。ここではお線香やお菓子などをお供えせずに、備え付けの小さな石ころに般若心経を書いたものをお地蔵さまの下に納めて頂きます。一杯になったら地下室に移しますが、そこにはすでに200年前の正光寺の大般若経600巻が眠っています。



地蔵堂内部:旧本堂の杉板の香りに心がいやされます



各室前にお位牌が安置されます
納骨室は一九〇室あります



扉の奥にはお骨壺を二箱
ずつ納めることができます



石に込められた般若心経を穴
からお地蔵様の下に納めます

新しい本堂でこんなこと…

ご葬儀やご法事はもちろんのこと、その他にも色々な行事に本堂は利用されています。そのうちの一つ「夏休みこども坐禅会」は先代恵澄和尚が昭和30年代初頭に地域の子供たちを集めて境内をラジオ体操に開放したのがきっかけとなり、後に体操の前の坐禅会がスタートしました。今ではその頃の子供たちが親になったり、中にはお孫さんが通っている姿も見受けられます。本堂工事中の2年間はお休みしましたが、この夏から再び子供たちは元気に毎朝やってくるようになりました。



大人から子供まで約六十名の読経
六年生は木魚をたたいてお経をリード

◇坐禅会メニュー

6:00～朝の挨拶・読経(般若心経・坐禅和讃)・坐禅・法話

6:30～ラジオ体操



最終日にはお掃除をして書院で朝ごはん

右の白黒写真は昭和34年のラジオ体操の様子です。旧本堂の萱ぶき屋根が懐かしいですね。境内の中央にはイチョウの大木があり、野球をすると邪魔になったものです。しかしそこはちゃんと上級生がルールを工夫して作ってくれました。体操もきちんと整列しています。昔は昔の良さが、今は今の良さが…それぞれにありますね。



皆勤賞と精勤賞のごほうび
は、卓上カレンダー



新しい本堂であんなこと…

臨済宗方広寺派第二教区住職・副住職研修会in正光寺



臨済宗方広寺派には末寺が167ヶ寺あります。それを4つの教区に分けており、ここ正光寺は第2教区（浜北区～東区の北側）にあたります。本山方広寺で行われる研修会とは別に、教区ごとに分かれて年に1度、教区研修会を行なうのですが、今年は正光寺にて研修会が開催されました。

最初に本堂で方広寺や正光寺の開山様に対してお経を唱え、その後2班に分かれて、ひとりずつ普段行なっている法話が披露されました。まだ、駆け出しの若い副住職から大ベテランの老僧までさまざまに特徴のある法話を聴くことができ、それぞれにとっても有意義な研修会になったことと思われます。 *正光寺ホームページより抜粋



正光寺略歴と余話(第6回)

正光寺16世瑞鶴觀哉禪師は本堂玄関正面の小部屋の襖の古面の画や旧本堂の妙見下間と脇の間の襖の書でおなじみである。

禪師は明治19年(1886)名古屋の洋服商の長男として生まれ、高等小学校在学中に浄土真宗の研究を思い立ち、商業学校に入った頃は同志と共に日本仏教青年会の組織化に尽力してその幹事となっている。先天的に宗教に興味を有し遂に学校を中退して法の道を志し御嶽山に詣でて九字を受けその後曹洞宗を学び18, 9歳の頃には山田経私見引力論等を草して世人を驚かしている。禪師の父はこれらの菩薩業を許さず勘気を受けるもこれを意とせず各地に巡回説教を試みたのである。静岡市の浄國寺に来た頃、母の死に会し過去の罪を悔いと共に益々仏門に入る自覚をなし、明治41年(1908)東京に出て大内青密師等を訪ねて仏教各宗義を極めしも、同年一家の事情に郷里に帰り染色会社の事務員になったのである。その時も夜は伝道説教に務め「理想の友」を発行して仏教の普及に尽くしている。ほどなくして工場を辞して、観音の像を描き神戸、豊橋を経て静岡浄國寺へ戻り観音婦女子会を組織して観音経を講義している。これより(明治43年ころ)興津清見寺、坂上眞浄禪師に臨済宗を学び、これが因となり師と共に丹波、丹後の布教に赴いている。この頃、観音木造を造るが禪師の信仰は第2期に入っていて、いまだ自己の力の足らざるを感じ明治45年頃伊豫八幡浜の禾山、蘭溪の2老師に師事するも、禪師父は出家を許さず、更に去って大正2年(1913)には京都天竜寺に入っている。しかし禪師の難行苦行は、遂に重き病に襲われ辛くも九死に一生を得て第3期の信仰生活に入ったという。

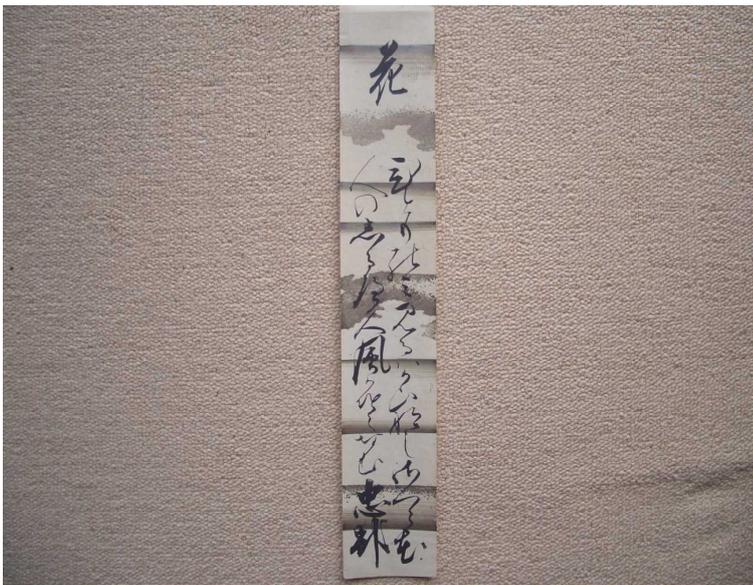
静岡法傳寺に戻り滞在して道の為活動をするが、大正3年には育成会を起し翌年には四誓会の発起人となり又、修身会を創立して本部を静岡市北安東の自宅内に置き300の会員を有し教壇における新進有為の人物であったという。この時まで父親の反対により僧籍には置くことができないが、信仰生活は却って權威の牙城のごときであったという。自ら号して「樂觀救子」と名乗り大正4年には静岡の渡邊伝八、富永勇の両氏と共に御即位奉祝を兼ね県下各宗教大会を静岡中学校に開き益々強化における熱血児として知られたという。

禪師の支持者や鉄筆作品(竹木等に鉄筆で観音様等を彫刻したもの)、観音画像を求めた人の芳名記録によると県下はもとより愛知、三重県下の有名寺院や素封家、銀行頭取、経済人の名がたくさんみられる。例えば天野回漕店・念仏家の天野九右衛門、面白いところでは奇行で有名な狂言師で画家の伊勢門水、又、正光寺開山と血脈の係わりのある小栗清平の名も見える。肩書は銀行員とある。先に上げた静岡の渡邊伝八も有力な支持者であった。氏は現在の社団法人伊豆屋伝八文化振興財団の理事長渡邊朗氏の祖父である。偶然にも渡邊朗氏夫妻は小生、静岡勤務時代のアフター5の友人で御夫人はソプラノ歌手で浜松市の有玉の高林方朗の家より嫁がれている。高林家の江戸時代後期の人、高林方朗は天保の改革で有名な水野忠邦(浜松藩主、幕府老中)の和歌の師で、小栗広伴とは同学の友で、広伴が他の村民23名と共に冤罪で唐丸籠で江戸に護送されたとき、広伴妻は有玉に走り嘆願をしている。(この事件は天保5年(1834年)御嶽神社の遷宮再建の時、領主北条氏珍に再建資金のことで村全体が迷惑を被ったようで、広伴は家(歌)集の中で、殿様から迷惑を被った事を吐露している。(浜松中央図書館蔵小山正の著「高林方朗の研究」にも記述あり)



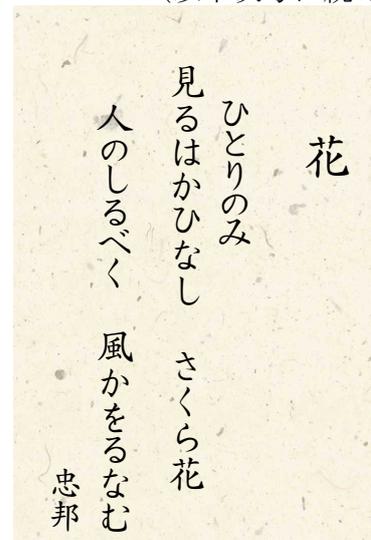
正光寺第16世瑞鶴観哉禅師筆観音図

広伴の栄樹園家集によると、この捕縛の前まで広伴は井伊谷の龍潭寺に匿われ保護を受けていて、龍潭寺でいくつかの和歌を詠んでいる。が、この事件は幕府老中水野忠邦のお陰であろうか、しばらくの後に無罪放免となっている。その後、広伴は高林方朗が亡くなった時、諡名を授けている。奇しくも時を隔てて観哉禅師と同じように、人と人の縁（えにし）を感じる。世の中はどこで繋がっているかわからない。観哉禅師は64歳で没しているが、奥山方広寺輪番勤務の時は紫衣を許され、もう少し長命であれば本山の有力な管長候補であったという。（以下次号に続く）



水野忠邦筆 和歌 短冊

広伴は時折、広伴詠の和歌を所望されている



参考資料：浜松市史、高林方朗の研究、
観哉略伝、観音様と鉄筆
文 責：小栗 仁

看板とガチャポン

このたび新たに看板が設置されました。お墓の入口と、境内東入口の道路沿いの二か所です。一人でも多くの方にもっともっと正光寺を知って頂きたく「正光寺にできること」を掲げてみました。法事や葬儀以外は割と知られていないお寺の役割ですが、箇条書きにしてみるとやはり『心の道場』であることがよくわかります。

臨済宗・方広寺派
『正光寺にできること』

- ・ いろいろな形態のご葬儀・ご法事
(本堂・書院を自宅や斎場のようにご利用頂けます)
- ・ 永代供養(納骨堂が完備されています)
- ・ 水子供養(小さないのちをなくさめましょう)
- ・ 動物供養(葬儀・納骨・供養などが可能です)
- ・ 仏前結婚式(古式にのっとった厳粛な儀式です)
- ・ 祈禱(個人祈禱、住居祈禱、地鎮祭、車祈禱など)
- ・ 坐禅指導
- ・ 法話
- ・ 写経
- ・ ご朱印
- ・ ご詠歌

〔年間行事〕

- ・ 正月元旦：正月参賀
- ・ 一月最終日曜日：妙見大祭
- ・ 三月彼岸中日：萬霊供養、地藏尊大祭
- ・ 四月第一日曜日：花まつり
- ・ 七月十五日：山門施餓鬼
- ・ 八月：夏休み子供坐禅会
- ・ 九月：彼岸写経会

〔月例行事〕

- ・ 坐禅会：第一土曜日(夜七時～八時半)
- 翌日曜日(朝七時～八時)
- ・ ご詠歌：第一金曜日(午後一時半～三時)

〔その他〕

- ・ 墓地分譲
- ・ 納骨堂分譲

◇どんなことでもお気軽にご相談ください。
お待ちしております。



この看板、遠忌委員長の小栗正實さんのご厚意により設置されました。皆さまもお誘い合わせて各行事に積極参加頂ければ幸いです。

次にガチャポンのこと

正光寺のお墓参りで人気なのがガチャポン。この手動式ポンプは平成16年に浜北管工さんからご寄付頂いたものですが、永年愛され続けついに本体が摩耗して使えなくなっていました。そこで顧問の藤森弘一さんがご喜捨下さり、新しい物と交換して下さいました。みんなで大切に利用しましょう。



ポンプを試す藤森さん

新総代さんをご紹介します



◇笠井地区の総代をお務め頂いた小栗正實さんが今年の4月から顧問になりました。長い間大変お世話になり有難うございました。なお遠忌委員長は引き続きお務め頂きます。後任の夏目さん宜しくお願い致します。

◇今年度より笠井地区の総代を務めさせて頂きます夏目康博です。今まであまりお寺の行事に参加してこなかったため、知らないことばかりです。皆様にいろいろ教えて頂いて、足を引っ張らないよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

…ぜひ ご紹介ください…

本号4ページでご紹介したように、地方から都市部への人口流出は増え続け、家やお墓の継承が難しくなっていることは事実です。正光寺の場合は幸いにして東京や大阪・名古屋などの大都市で活躍していらっしゃる方々でも離檀することなく、故郷やご先祖様を大切にしておられます。そしてお彼岸やお盆にはお里帰りのようにお寺を訪ねて下さいますので、久しぶりにお元気な顔を拝見するととても嬉しくなるものです。また遠くでなくても檀家様のご兄弟や子や孫の皆さんがお墓参りをしている姿を拝見すると、これまた幸せな気持ちになれます。

そこで、次の世代を引き継ぐ方や分家になられる方はもちろんですが、ご兄弟やお子様・お孫様など男女年齢を問わず正光寺との関わりを深めて頂きたいと願うのです。

具体的には、ご住所を教えてくださいました『正光寺カレンダー』と、この『遠忌だより』をお送りしたいと考えています。カレンダーをながめた時に、あるいは遠忌だよりが届いた時に正光寺のこと、実家の皆さんのこと、ご先祖様のことが思い出されることでしょう。そしてそんなことがとても大切なことのように思えるからです。

同封のハガキにご紹介頂ける方のご住所やお名前などを書いて切手を貼らずに投函して下さい（10月31日までなら来年のカレンダーに間に合います）。同居の場合や、すでにお知らせ頂いた場合は投函不要です。尚、お預かりした貴重なデータは上記以外に使用することはありませんし、責任をもって住職が管理して参ります。

以上、何卒よろしくお願い申し上げます。

新コーナー いっぷく拝見 正光寺所蔵の掛け軸をご紹介します

向かって右の書は「松に古今の色無し」
左は「竹に上下の節有り」と読みますが、
左右二幅で一对の禅語となっています。右
は竹筆で左は太い毛筆で、どちらも豪快に
書き上げられています。方広寺派管長大井
際断老師（大隠窟）の見事な書です。



〔大意〕

松には色変わらぬ千年の翠がありながら、日々の営みには変化が厳然としてある。竹の節には歴然とした上下をみるが、優劣を論ずることは愚である。差別の中の平等、平等の中の差別を味わうは禅の妙味であり、平等に寄っても差別に落ちても瞬時に生命を失ってしまう。どう生きるか…。

檀家さんの声をお寄せいただきました

東区豊町

小栗 勘治

私は縁あって地元で珠算教室を開いており、毎日小学生の子供たちの顔を見ています。十人十色、性格が違うように顔の表情も日々変化します。笑った顔、怒った顔、元気な顔、困った顔、自信に満ちた顔、不安な顔と様々です。その中に心配な顔が見受けられます。無表情な顔です。

私は、その生徒には積極的に名前を呼んで声掛けをします。何回か繰り返すと徐々に話すようになりました。家庭のこと、学校での出来事、友達のこと…。会話が進むにつれて自然と顔に表情が表れるようになりました。会話が顔の表情作りに効果があると実感しました。色々なタイプの生徒がいますが、皆それぞれに日々成長する姿を見ていると喜びを感じます。

さて正光寺も本堂が新築され、山門を潜ると気持ちよく優しく迎え入れてくれます。表情豊かな前庭、品格ある玄関や本堂と、新しいお寺の顔の誕生です。これからは四季を通してのお墓参りがますます楽しみになります。



約30年前の正光寺での合宿(朝日珠算塾提供)

浜北区貴布祢

森田 敬子

改めて新本堂の完成、誠にありがとうございます。大変嬉しく思います。外観から見ても中に入らせて頂いても、今までと変わらぬ心落ち着く場所となりました。

正光寺様とのご縁を頂いたのは森田家に嫁いだ時からで、かれこれ50年にもなります。先代の和尚様の哀愁の籠ったお声がとても懐かしく今でも心に残っております。そして今のご住職様は何でもお出来になられ、またどんな些細なことにも耳を傾けて下さり感謝しております。また陰ながら一生懸命支えて下さる奥様のお力も本当に大きく、私達はとっても安心致しております。副住職の啓眞様にはお嫁さん、お子様と二重のお慶びで本当におめでとうございます。京都へのご修行の時から存じ上げておりましたので、我が子のことのように嬉しく思います。正光寺様の行く末も安泰だと安堵致しました。

こうして私がペンを執らせて頂けることも、ご先祖様や義姉弟、姉妹以上に私を見守って下さる従姉妹夫婦のお陰だと感謝しております。最愛の夫・肇を亡くしてもう17年も過ぎてしまいました。主人の立ち上げた(有)浜北管工もお陰様で40周年を迎えることができました。良き従業員に恵まれ、仕事にも恵まれて今日に至っております。これも偏に菩提寺のご本尊様のお陰だと切に感じております。一人身の淋しさを紛らすために始めた俳句、卓球、ハーモニカ、旅行等々充実した毎日を送らせて頂いております。

爽やかな 風落慶の 堂に入る …敬子…

編集後記

私は檀家さんの正光寺への思いがこんなに強いとは正直なところ思いませんでした。十年前、耐震診断をして頂き、止む無く耐震補強をと動き出しましたが、もう少し力を合わせて頑張れば300年前のご先祖や300年後の子孫たちにも恥かしくない本堂が新築できると言われ、本堂・位牌堂・書院・納骨堂まで立派に出来上がり、完成お披露目会も盛大に行われました。ひとえに檀信徒の心が一つになったからこそその事と、つくづく思う次第です。(Y・M)

◇発行：〒431-3101 浜松市東区豊町749 金光山 正光寺
TEL (053) 434-0800 FAX (053) 443-7410
正光寺ホームページ <http://shokoji.info>
◇編集：「正光寺開山400年忌報恩記念事業実行委員会」総務部会